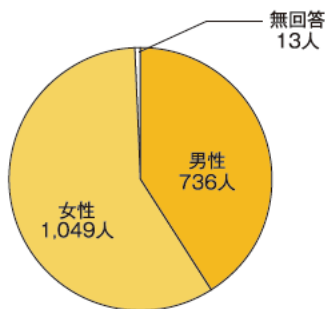


# 高齢者の生活実態に関するアンケート集計結果

## ●調査の概要

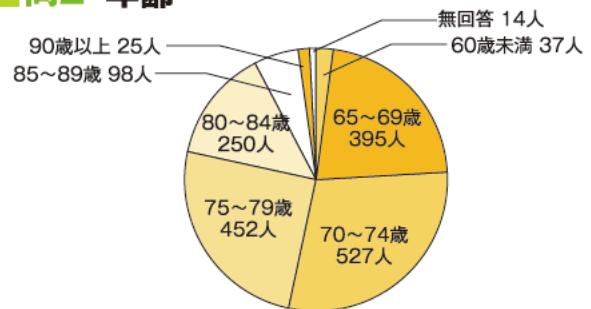
配布先／配布数／配布方法等	調査項目
調査対象：四郷地区(四郷、高花平、笹川地域)のひとり暮らし高齢者、高齢夫婦のみ世帯 調査期間：平成20年12月1日から平成21年1月15日 調査方法：民生委員による配布、留め置き、回収 回収状況：配布数2,000、回収数1,798(回収率89.9%)	・年齢、性別、世帯や住まいの状況などの基本属性 ・日常生活における外出の機会の有無 ・日常生活における支援の授受の関係 ・幸福感や不安感 ・日常の楽しみなど (集計) ・全体の設問ごとに単純集計及び地区別クロス ・ひとり暮らし高齢者の設問ごとに地区別クロス ・ひとり暮らし高齢者の設問ごとに性別クロス

### 問1 性別



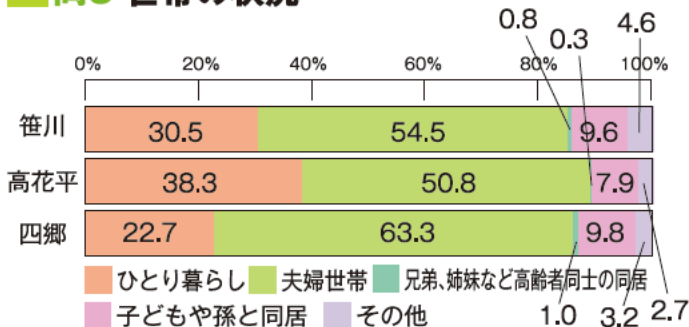
回答者の性別は、「女性」が約60%、「男性」が約40%と女性が多い。

### 問2 年齢



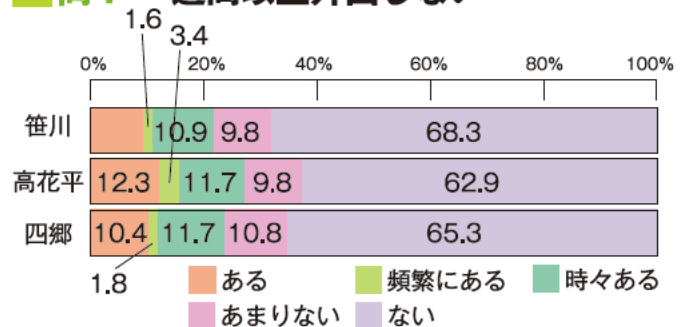
回答者の年齢では、「70～74歳」が最も多く30%近くを占めている。次いで「75～79歳」が25.1%、「65～69歳」が22.0%となっている。

### 問3 世帯の状況



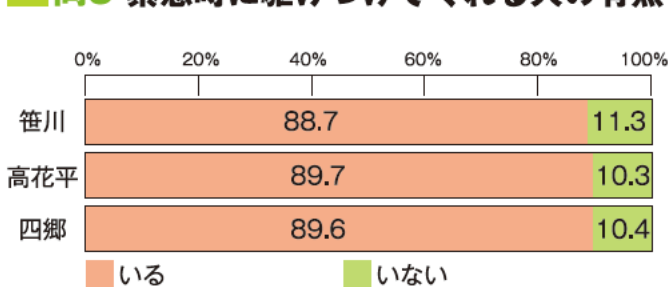
地区別でみると、笹川地区と高花平地区において一人暮らしが多くそれぞれ30.5%、38.3%を占めている。また、四郷地区は、高齢者夫婦世帯が多く60%以上を占めている。

### 問4 一週間以上外出しない



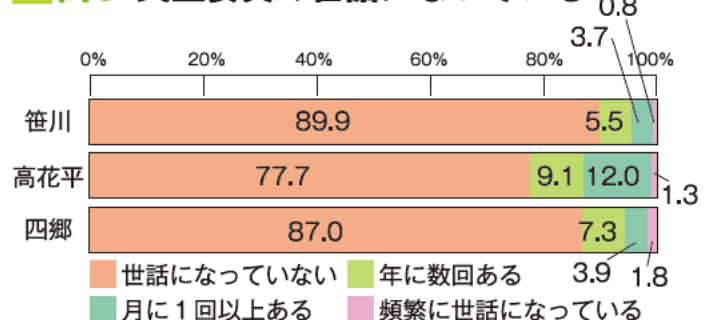
地区別でみると、大きな偏りはみられないが、高花平地区では「ある」「頻繁にある」をあわせると15.7%と他の地区よりやや多くなっている。

### 問5 緊急時に駆けつけてくれる人の有無



地区別でみると、だささ側地区で緊急時に駆けつけてくれるひとが「いない」という割合が11.3%あり、他の地区よりわずか高い。

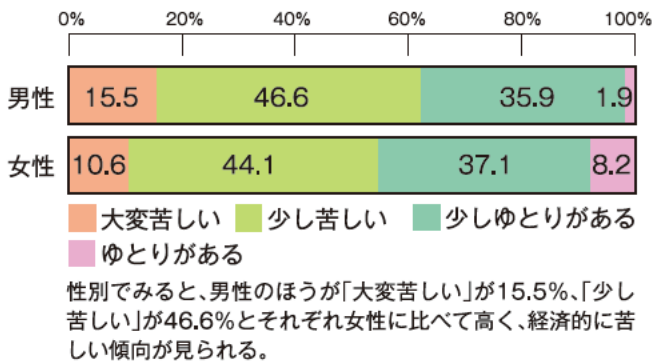
### 問6 民生委員の世話になっている



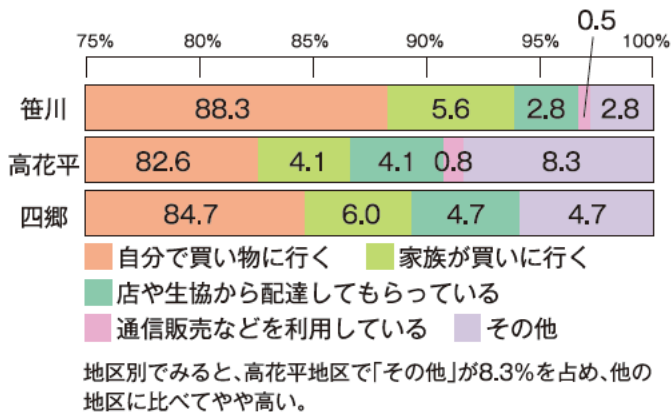
地区別でみると、高花平地区で「月に1回以上世話になっている」が12.0%、その他の割合も高く、他の地区に比べて民生委員の世話になっている人の割合がやや高い。

## ●ひとり暮らし高齢者の状況

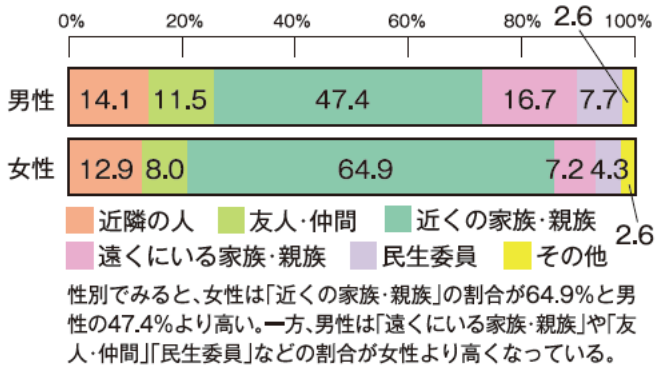
### 問1 経済状態（暮らし向き）



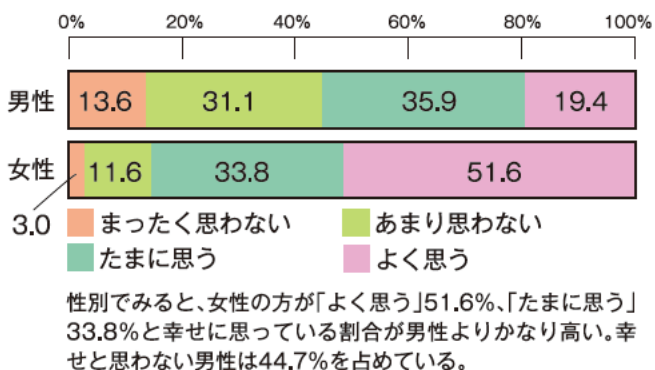
### 問3 日常必要な物の購入



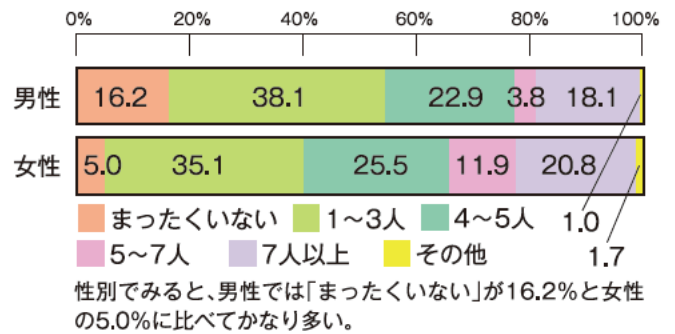
### 問5 緊急時に駆けつけてくれる人の有無



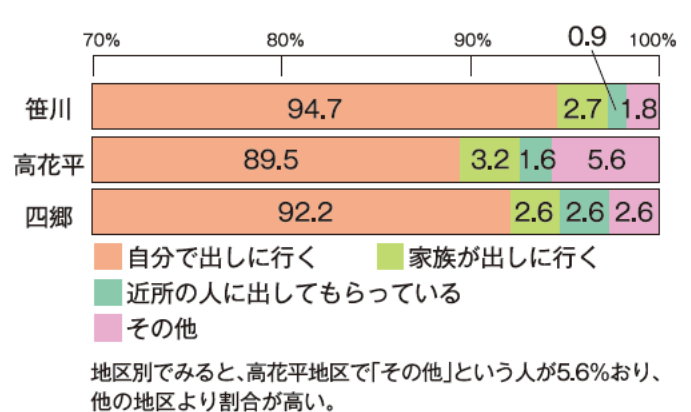
### 問7 いま幸せと思いますか



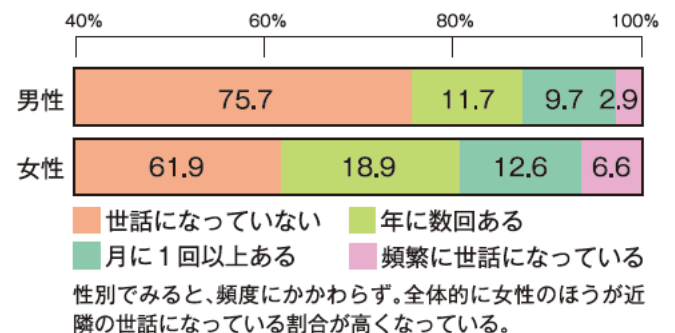
### 問2 いつも親しく付き合っている人



### 問4 ゴミ出し



### 問6 近隣の人に世話になる



#### <アンケート結果のまとめ> (抜粋)

- 全体集計結果としては、それぞれが長年住みなれた地域で、近隣とかかわりながら生活している姿がうかがえる。生活的にも約半数以上の人が経済的不安を抱えているものの、いま幸せと感じている人の割合も80%と高い。しかし、「1週間以上外出していない」と回答した人は全体比率として10%、実人員にして180名、「緊急時に駆けつけてくれる人がいない」と回答した人が9.5%、実人員にして170名と数値的には低いものの、孤立化リスクという視点においては、注目すべき結果が得られた。
- 上記のように注目すべき点は幾つかあるものの、孤立化指標として考えられる現象は見られなかった。ひとり暮らしに限ってみると、男性の方が賃貸で居住年数が短く、親しい友人も少ない。また、経済的にも苦しい人が多く、緊急時に駆けつけてくれる人も少ない。いま幸せと思っている人も女性に比べて、かなり少ない状況がうかがえる。今後、男性のひとり暮らしの方が女性に比べて孤立化に進む可能性が高く、早い時期から生活支援の手立てを講じる必要性が明らかになっている。